

平成24年度 自己評価計画に対する中間報告書

石川県立野々市明倫高等学校

重点目標	具体的取組	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	中間評価結果
1. 学校内外の研修を通して教員の授業力の向上を図り、生徒の学習意欲の高揚と学力向上に努めるとともに、進路希望の達成に向けて粘り強く取り組む姿勢を涵養する。	① 授業を個々の生徒の実態に即して効果的に実施し、さらに習得した知識を活用できるように思考力・探求力を高める。	基礎・基本事項はある程度理解しているが、生徒が自ら考え探求しようとする場面が少ない。	【努力指標】(教員) 個々の生徒の実態に即して基礎事項を活用する課題を与えている。	習得した力を活用するための問題を A 毎時間与えている B 1週間に1度与えている C 2週間に1度与えている D 与えていない	A+Bが80% 未満の場合は、 教科で改善策 を検討	7月調査結果 A+B=78% A 32% B 46% 12月に最終評価
			【成果指標】 指導方法や、課題の与え方により、生徒の学習意欲が高まり、成績の上昇がみられる。	1, 2年の英数国の学力試験偏差値54以上の生徒が A 55人以上 B 45人以上 C 35人以上 D 35人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	1年 12月、2月 2年 12月、2月に実施
	② 研究授業・公開授業などを通して、授業評価で検証しながら、授業改善に努める。	昨年度の授業評価における生徒の授業に対する満足度は77.3%である。さらに、各教員が指導の内容を客観的に把握し、生徒が主体的に学ぶ授業づくりに努める必要がある。	【満足度指標】(生徒) わかりやすい授業により学習意欲が高まり、積極的に授業に参加することができる。	生徒の授業評価で、授業が理解できると感じる生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満	教科別の評価でDの場合は、その教科で改善策を検討	7月調査結果 C 79.8% よくあてはまる 36.6% ほぼあてはまる 43.2% 12月に最終評価
			【努力指標】(教員) すべての教員が研究授業・公開授業に取り組む、研究協議会の充実を図る。	授業改善に役立つ研究協議会が実施できたと感じる教員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、原因を分析し、方策を再検討	研究授業公開週間を教科ごとに設定して実施中 12月までに全教員実施予定
	③ 基礎基本の定着を図ることにより、学習意欲を高め、課題の工夫などにより学習時間の増加を図る。	1・2年生の休日も含めての平均家庭学習時間は約120分であり、基礎学力を定着させ学習意欲を高める取組が必要である。	【成果指標】(生徒) 十分な家庭学習時間が確保され、継続的な学習が定着している。	各クラスの平日の平均家庭学習時間が、1・2年生で100分以上確保している生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月調査結果 B 71.0% 1年 76.6% 2年 65.0% 12月に最終評価

重点目標	具体的取組	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	中間評価結果
	④ 時期に応じたきめ細かな面接指導により、生徒の進路意識を高め、早期に目標を設定させる。	きめ細かな進路ガイダンスや個人面談を充実させ、進路意識を高め進路目標決定への取組を時期に応じて適切に行う必要がある。	【成果指標】(教員) 面接指導が適切に実施されている。	生徒の実態に合わせた個人面談を年間に A 8回以上実施した B 6回以上実施した C 4回以上実施した D 4回未満であった	A+Bが80% 未満の場合は、 改善策を検討	7月調査結果 A+B=37.5% A 12.5% B 25.0% 12月に最終評価
	⑤ 国公立大学への志望者数を増やし、合格者数を増加させる。	国公立大学の合格者数は39名であったが、現役合格者数は8名増加し、難関私大の合格者は6名であった。センター試験対策に取り組むとともに、個別指導を強化し、2次力のアップのために最後まで粘り強く取り組む姿勢を育てる。	【努力指標】(教員) 個別学力試験への対応力を高めるために、効果的な補習や小論文指導を実施する。	個別学力試験に向けた補習や小論文指導が効果的に A 実施できた B 概ね実施できた C あまり実施できなかった D 全く実施できなかった	A+Bが70% 未満の場合は、 改善策を検討	3月上旬に実施
			【成果指標】 国公立大学の合格者数を増加させる。	国公立大学合格者数が A 60人以上 B 55人以上 C 50人以上 D 50人未満	Dの場合は、改善策を検討	3月下旬に実施
			【成果指標】 私大志望の生徒への指導を強化し、実現率を高める。	難関私大合格者数が A 20人以上 B 15人以上 C 10人以上 D 10人未満	Dの場合は、改善策を検討	3月下旬に実施
2 部活動や生徒会活動の活性化と体験的学習活動の充実に努め、チャレンジ精神の涵養を図るとともに、地域に開かれた、明るく活力ある学校づくりを推進する。	⑥ 部活動の加入をうながし、学校全体の活性化を図る。生徒のチャレンジ精神と部活動の実力向上を目指す。	部活動の当初加入率は85%であるが、12月には82.6%に減少した。途中退部者や未加入者に対して適切な対応が必要である。	【成果指標】(生徒) 部活動の加入率を維持する。	1、2年生の12月の部の加入率が A 86%以上 B 84%以上 C 82%以上 D 82%未満	Dの場合は、改善策を検討	12月に実施
		昨年度、文化部は好成績をあげたが、運動部の上位入賞が少ないのが現状である。	【努力指標】(教員) 各部活動が各種大会や活動での目標を設定する。	設定した目標を達成できた部の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	Dの場合は、指導方法の工夫をする	7月調査結果 A 62.5% 運動部は 52.9% 12月に最終評価
	⑦ 体育授業時に運動量を確保し、特に持久力の向上を図る。	一昨年度は79%、昨年度は59%であり、生活の中で運動時間の減少と体力の低下傾向があり、さらに向上させる必要がある。	【成果指標】(生徒) 体育の授業で毎時間体づくりの運動を実施する。	1、2年生の新体力テストで、1回目より向上した生徒が A 75%以上 (シャトルラン) B 70%以上 C 65%以上 D 65%未満	Dの場合は、改善策を検討	5月調査結果 1年 男子94点 女子55点 2年 男子97点 女子50点 3年 男子93点 女子54点 12月に最終評価

重点目標	具体的取組	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	中間評価結果
	⑧ 地域の文化財、歴史、特産物について調べ、英訳し国内外に発信する。	ふるさとについて、愛着は持っているが、自らの文化を広い視野から理解するなどの経験が少ない。	【満足度指標】(生徒) ふるさとについて興味を持ち、主体的に調べる。	ふるさとについて理解し、満足感を得た生徒が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	CまたはDの場合も次年度継続して実施	7月調査結果 B 74% よくあてはまる 30.3% ほぼあてはまる 43.7% 12月に最終評価
	⑨ 「朝の挨拶運動」などのPTA活動に積極的に参加してもらい、生徒の育成をバックアップしてもらう。	保護者はPTA活動に83%満足しているが、「朝の挨拶運動」の参加率は減少しており、より積極的に保護者に参加してもらう。	【満足度指標】(保護者) 保護者が学校行事やPTA活動を理解し満足している。	PTA活動に保護者が A 大いに満足している B ある程度満足している C 少しは満足している D 不満である	A+Bが85%未満の場合は、改善策を検討	7月調査結果 A+B=83.5% A 21.1% B 62.4% 12月に最終評価
3 節度ある生活習慣の確立と安全意識の高揚に努め、自ら挨拶し、ボランティア活動等にも積極的に参加する心豊かな人材の育成を図る。	⑩ 登校指導や生活指導などを通して、あいさつがしっかりできる人間の育成を図る。	教員の指導は積極的に行われているが、生徒の評価では、あいさつを自らすすんでしたが43%、相手からされれば返したが51.6%であり、教員の評価は高くない。	【成果指標】(生徒) 毎日、自ら積極的にあいさつをする。	生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、あいさつを自分からすすんで A することができた B できなかった	Aが50%未満の場合は、改善策を検討	7月調査結果 A 74.6% 12月に最終評価
	⑪ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	自転車乗車におけるルールを守れない生徒の数が増加しており、交通安全に対する意識をもっと高める必要がある。	【成果指標】(生徒) 自転車運転のルールとマナーの必要性を認識し、交通ルールを遵守する。	交通ルール(自転車の二人乗りや携帯電話を操作しながら等の運転をしない)を遵守している生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月調査結果 A 92.2% よくあてはまる 60.6% ほぼあてはまる 31.6% 12月に最終評価
	⑫ 環境美化の意識を持ち、全員一斉清掃に取り組める生徒の育成を図る。	校内は整備されているが、清掃活動に対して、積極的に取り組む生徒が減少してきている。	【成果指標】(生徒) 環境美化を意識し、積極的に清掃に取り組もうとしている。	清掃活動に A 積極的に取り組んだ B ある程度積極的に取り組んだ C 取り組んだ D あまり取り組まなかった	A+Bが90%未満の場合は、改善策を検討	7月調査結果 A+B=83.8% A 36.6% B 47.2% 12月に最終評価
	⑬ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	生徒は落ちついた生活を送っているが、全職員が生徒の変化を敏感に把握し、早期に対応する必要がある。	【努力指標】(教員) 各種調査や担任との情報交換などで、支援を必要としている生徒を常に把握し、適切な対応をする。	生徒の変化に対して A 素早く察知し、対応することができた B 素早く対処し、解決に至った C 素早い対処ができず、解決が遅れた D 発見・対処が遅れた	A+Bが90%未満の場合は、改善策を検討	7月調査結果 A+B=94.1% A 31.4% B 62.7% 12月に最終評価

重点目標	具体的取組	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	中間評価結果
	⑭ ボランティア活動への自発的な参加を促す。	昨年度は参加した意識の生徒が31.2%であり、部活動や生徒会執行部が企画し、積極的に参加している生徒も多いが、主体的な参加を促す必要がある。	【成果指標】(生徒) ボランティア活動を野々市市とも連携し学校全体や部として参加する。	ボランティア活動に、 A 年5回以上参加した B 年3回以上参加した C 年2回以上参加した D 年2回未満であった	A+Bが90%未満の場合は、改善策を検討	7月調査結果 A+B=13.9% A 6.5% B 7.4% 12月に最終評価
	⑮ 各学年団と連携し、生徒の読書を促進する。	読書の促進のため図書委員会による企画・掲示の工夫とともに、一斉読書など、全校的な取組が必要である。昨年度は6.1冊である。	【成果指標】(生徒) 生徒が積極的に図書を利用している。	全学年の生徒一人あたりの年平均貸出冊数が A 7.0冊以上 B 6.0冊以上 C 5.0冊以上 D 5.0冊未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	9月18日までの中間集計 1年 2.1冊 2年 2.2冊 3年 2.5冊 2月に最終評価